会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議名
（審議会等名）</td><td colspan="3">第９回相模原市立小中学校の望ましい学校規模のあり方検討委員会</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局
（担当課）</td><td colspan="3">学務課　電話０４２－７６９－８２８２（直通）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">平成２８年7月２０日（水）　１５時００分～１７時００分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td colspan="3">ウェルネスさがみはら　７階　視聴覚室</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委　員</td><td colspan="3">１２人（別紙のとおり）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">０人</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">９人（教育環境部長、教育総務室長、学務課長、
学校施設課長、学校教育課長、教職員課長、他３人）</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開の可否</td><td>■可　□不可　□一部不可</td><td>傍聴者数</td><td>１人</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開不可・一部不可の場合は、その理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">会議次第</td><td colspan="3">１　開会あいさつ

２　議題
(1)前回の審議を受けての修正・追記事項
(2)望ましい学校規模を実現する際に留意するべき事項について
・安全な通学環境の確保
・子どもにとっての環境変化への配慮
・学校と地域の繋がりへの配慮
・魅力ある学校づくり

３　閉会</td></tr>
</table>

審　議　経　過

主な内容は次のとおり。（○は委員の発言、●は事務局の発言）

1　開会あいさつ

小松会長あいさつ

2　議題

（1）前回の審議を受けての修正・追記事項

資料１について、事務局から概要説明を行った。

○　資料１の表４「学校規模が教育環境に与える影響」のうち、小規模校の教職員に対する影響について、「成績処理などの学級の事務負担が少ない。」という記載は、本来は学校規模ではなく学級の人数によって影響を受ける部分なので、誤解を与えてしまう。

●　「学校の事務負担が少ない。」という表現に修正させていただくのはいかがか。

○　学校規模に関わらず、学校でやらなければならない事務量はそれ程変わらないので、「学校の」という表現もそぐわない。

○　通知表の確認等は全校分を校長が確認するので、大規模校であればそういった点で負担が大きいという主旨の記載だと思っている。

●　「学校全体に及ぶ事務の負担が少ない。」という表現に修正させていただくのはいかがか。

○　小規模校は、成績処理等は児童生徒数に比例して量が少ないが、学校運営に関する校務分掌の職務は学校規模に関わらず内容と量がほぼ一定であり、教員一人あたりの負担が重くなりやすい。

小規模校は全体的に事務負担が軽いという誤解を与えないようにしたい。

○　文言の問題なので、「場合がある」などの表現にしてはどうか。

○　学校全体の業務量と、教職員一人あたりの業務量を区別して、誤解ないように記載して欲しい。

○　大規模校の保護者に対する影響として、保護者同士の情報交換の機会が多いというメリットを追加してはどうか。

一方で、小規模のデメリットとして、保護者同士の学び合いや情報交換の機会が得にくいという点を追加してはどうか。

２点目として、構成案の 15 ページの冒頭は、「児童生徒にとっての環境変化や、地域への影響が比較的少ない手法により」の読点の位置を変更して、「児童生徒にとっての環境変化や地域への影響が、比較的少ない手法により」とすると主旨が伝わるのではないか。

３点目として、構成案の 15 ページの表中の、「学習時間の圧迫」という表現がわかりづらいので、「移動時間により学習時間確保の影響等」としてはどうか。

○　表４について、小規模校の保護者に対する影響のメリット１点目と、先ほどの「保護者同士の学び合いや情報交換の機会が得にくい」という表現は矛盾するので、記載は考慮した方が良い。

○　学校現場や地域の実感、意見を尊重した方が良い。

○　直近の自治会の総会でも、地域における子ども会の運営や学区との関わりなど、かなり危機感を持った意見が出ている。

○　表現については事務局で整理し、誤解を与えないように修正して欲しい。

○　構成案の 19 ページについて、過小規模・過大規模を定めた根拠の記載を膨らませた方が良いのではないか。

○　様々な議論を重ねたうえで、最終的にこの数字に落ち着いたということがわかるように記載を加えたらどうか。

●　御意見のとおりに、記載を追加させていただく。

（２）望ましい学校規模を実現する際に留意するべき事項について

資料２「安全な通学環境の確保」について、事務局から概要説明を行った。

○　関係者が実際に通学路を目で見て改善する取組みは非常に大事であるので、実地踏査は継続して欲しい。

また、コミュニティバスを登下校に利用できるようなアイディアを加えたらどうか。

基本方針の道路整備の項目に登下校時間帯の通行規制も加えたらどうか。

●　現在の危険箇所の取組みのなかでも、学校から要望があり、また周辺地域全体の合意を得られた場合には、時間帯規制を行った事例がある。

子どもの安全確保の視点から、そのような取組みも記述させていただきたい。

コミュニティバスの活用については、学校規模適正化の観点から通学距離が長くなってしまう場合には、既存の市内路線は２線程だったと思うが、活用できるものは活用していきたいと考えている。

○　過去には地域の一人の反対で交通規制ができなかったこともある。

警察は交通規制に慎重な部分があり、地域として要望を持っていても、なかなか実現が難しい場面がある。

○　我々としては子ども達の安心安全が図られることが大事なので、地域の皆さんの御理解がいただけるように粘り強く頑張って欲しい。

資料３「子どもにとっての環境変化への配慮」について、事務局から概要説明を行った。

○　適正化による環境変化はマイナスの面だけではなくて、学校同士の交流を通じて友達が増えることや、これまではできなかった学校行事ができるようになることなど、プラスの変化を子ども達が楽しみだと思えるようなケアができれば良いと思う。

○　文言の確認だが、相模原市では「スクールカウンセラー」ではなく、「青少年教育カウンセラー」という名称だったと思うが。

●　相模原市で使用している名称に修正させていただく。

○　環境が変化すれば保護者の方々も不安に思うことが多いので、保護者に対してしっかり説明して不安を取り除くなどの配慮が必要かと思う。

資料４「学校と地域の繋がりへの配慮」について、事務局から概要説明を行った。

○　地域性が新しい学校にどう反映されていくのかは大事な問題である。

○　藤野地域の小学校の実態をお話すると、３校に統合されて登下校がバスになったことで、自然災害にかなり影響されるようになってしまった。

大雪で１～２週間休校したこともあり、他の地域と比べて年間の休校日数が多くなっている。

そのような影響も考慮して欲しい。

●　そのような現状は確かにある。

藤野中学校の学区は、中央区や南区と同じくらいの面積になってしまっているので、徒歩では通えないためスクールバスを出す等している。

路線バスの場合は時間が決まっているので、学校に合わせて柔軟に調整することが難しく、学校活動の制約となっている部分はあると思う。

○　難しいのかもしれないが、学校活動に支障がでないように行政とバス会社が交渉して、配慮がなされれば良いと思う。

大雪で１～２週間休校した際は、その分の授業をどうしたのか。

●　７～８時間目を設け、下校の時間もバス会社と調整して対応したと記憶している。

○　地域とは自治会を一つのユニットとしていると思うが、地域が分断されるとは具体的にどういうことなのか。

●　昔は行政管区に小中学校が納まっていた。

人口が増えるに従い、行政管区内に納めて新しい学校を作るのが難しくなってきて、行政管区同士の真ん中に学校を新設するようなケースを繰り返してきた。

現在は、各自治会の区域内に通学区域も公民館区も納まっていない状況となっており、一つの自治会区に学校を納めるのは難しいという印象である。

○　地域という概念については実は難しい問題であり、行政区なのか自治会区なのかという議論が昔からある。

学校が地域を跨いだ場合に、当初は親同士が知り合いなのでそれ程問題は起きないが、時間が経つにつれ、学校が違うと同じ自治会区の中であっても交流が全くなくなってしまう。

大人同士ならば地域の努力でなんとかなるかもしれないが、子ども同士は道路を隔てるだけで全く遊ばなくなってしまうという難しさがある。

指定変更で登校時にすれ違う子どもを見るが、すれ違っているのに遊ばない。

学校同士の交流があれば緩和できるのかもしれないが、なかなか難しいのではないか。

将来的に子どもが成人した時に、地域の行事に参加しなくなってしまい、地域運営に支障が出ることを懸念している。

地域で努力するべき問題なのかもしれないが、学校側も配慮して欲しい。

○　「通学区域が地域を分断しないことを原則とする。」と記載してしまうと、それが縛りとなってしまい、柔軟な考えができなくなってしまうので、もう少し含みを持たせた表現に修正してはどうか。

○　私は、人間はどこで育ってきたかというものが基本にあると思う。

地域というのは固有の伝統、文化、人付き合いを共有するものだと思うが、それが近年は崩壊の危機に瀕していて、細々と継承されている現状である。

地域という人の根っこにあるものを外してしまうと、なかなか合意を得られないのではないか。

最低限守らなければならないラインだと考えている。

○　元々は、地域で小学校を大事に育てていこうというところから始まっており、そこから自治会等が発生してきているはずである。

そういった経緯を考えると、一つの学校の子どもが別々の自治会に所属しているという状態は非常に問題であるので、地域を分断しないことを原則とすることは必要である。

○　学校が地域からなくなってしまうと、地域崩壊に繋がるという危機感は多くの地域の方が持っている認識かと思う。

一方で、地域も変化せざるを得ない状況が発生してきていて、それが人口減少であり、学校の適正規模適正配置の問題であると思っている。

学校と地域の繋がりを大事にしていくことを方針として打ち出し、具体案を資料のとおり４点にまとめるということで良いと思う。

○　中学校のバス通学について、部活動は成立しているのか。
　また、小学校の放課後の遊びはどうなっているのか。
●　バス事業者との調整のなかで、下校時は何本かバスを運行しており、部活動等に対応できるようにしている。
○　バスの運行により、学校のスケジュールが縛られている現状は確かにある。
○　留意事項の１点目で、方針を協議して決定した後に、その後の継続したサポート体制についても記載が必要かと思う。

　資料５「魅力ある学校づくり」について、事務局から概要説明を行った。

○　進学校クラス・全寮制クラス・スポーツ特待生クラスというのは具体的にどういうものを想定しているのか。
　また、学校の特性は地域の特性だけではなく、学校施設の特性や教員の特性などもある。
　具体的なクラスの話と特性を活かしたカリキュラムの話を併記することに違和感がある。
　進学校クラス等の具体的な記載はいらないのではないか。
○　既存の枠組みではできなかった取り組みを、学校統合や適正配置の機会を捉えて思い切ってやれないかということで例示されている箇所だと思うが、フリーに御意見を言っていただいた方が良い。
　例えば、全寮制の学校などは、色々な事情のご家庭があるので需要は充分にあると私は思う。
　国ではフリースクールを学びの場として認めようという動きがあり、そうなると完全に学習指導要領とは別の場となるが、それよりは資料の例の方が今までの学校に近いとは思うが。
○　私は挙げられている事例はとても良いと思う。
　新しい相模原モデルを発信できれば良いと考えていて、現時点ではビジョンを表す段階であるので、あまり細かい点を気にするのではなく、大人も子どももワクワクできるようなビジョンを記載すれば良いと思う。
○　学校運営としてこういうものが適正なのかを充分に議論する必要があるとは思うが、ニーズは存在すると思うし、やり方によっては可能性があると思う。
○　私は進学校クラスやスポーツ特待生クラスには違和感がある。
　義務教育段階では、「子ども達に差はない。」「やればできる。」と指導をしているのに、特待生にしてしまっては差があることを認めることになる。
　学校現場としては違和感がある。

●　進学校クラス、全寮制クラス、スポーツ特待生クラスについての記載は、事務局に具体的な考えがあるわけではなく、過去の検討委員会の議論のなかで、他市の事例等として委員から御意見いただいた内容である。

　具体的なアイディアを並べるか、抽象的な表現にするかも含めて御議論をいただきたい。

　統合よりも特認校制と関連する施策とする方がふさわしいのであれば、記載箇所を変更させていただく。

○　学校統合の話になると、小規模校が多いのは津久井地域であるので、統合しても適正規模に満たないということになるのではないか。

○　将来に含みを持たせる段階であるので、こういう記載があっても良いと思う。

○　適正配置というのは、教育環境を平準化するという視点から考えるものではないのか。

○　大学で教えていると、分数ができないような学力の大学生が相当数でてきてしまっている現状があり、どこか早い段階で学び直しの機会を与えてあげなければならない。

　教育論的な議論はいくらでもできるが、現実に目を向けて、義務教育の中で学び直しができるような学校を作る。

　そういったアイディアも魅力ある学校をつくる特色ある取組みの一つではないか。

○　馴染みのない取組みを見ると驚いてしまうが、文科省もフリースクールのような特殊な学習をしている学校を義務教育として認めるような議論をしている流れのなかで、相模原市として芸術でもなんでも良いが、特色ある取組みを打出しても良いのではないか。

○　「魅力ある学校づくり」ではなく、「魅力ある地域と学校の関係づくり」としてはどうか。

　いくら魅力ある学校を作っても、地域が廃れていてはどうにもならない。

　地域と学校の関係が良ければ、通っている子ども達も良くなってくる。

　例えば、不登校や非行に走っている子どもに対しては、学校よりも地域が力になれる場面があると思う。

　別の項目を設けることも含めて、こういった内容も記載して欲しい。

○　「魅力ある学校づくり」とは、相模原全体の学校を良くしていくという側面と、過疎化が進んでいる地域の学校を魅力ある学校にして、特認校のように子どもを集めるような側面があるかと思う。

○　学校統合という文言の使い方には注意を払って欲しい。

　読んだ方が誤解を抱かないように表現に工夫が欲しい。

○　小規模校の話が中心になってしまっているが、課題を抱えているのは小規模校よりも大規模校であるので、大規模校の魅力ある学校づくりの記載も加えて欲しい。

○　地域と学校が密接に結びついている姿が望ましいということは良く理解できるが、グローバリゼーションが進んだ社会の中で転勤に伴う転校を繰り返す子どもが多くなっている現状も考慮したい。

　徒歩１５分圏内に小規模校が３校並んでいるような地域も存在するので、あまり学校ごとに区切るよりは、各々が特色ある学校となって、子どもは学校をある程度柔軟に移動できるような、新しい学校の作り方も考えてみたい。

○　一方で、そういう子ども達が増えてしまうと、地域を次代に継承し、地域づくりを持続することができなくなってしまうという懸念がある。

○　色々な配慮を前提として、そういう新しい取組みが全く不可能ということではないような気もする。

○　原則論としてはどの学校に通っても平等な教育が受けられるということであるが、学校が近接している状況で、ある程度特色を出して、自分に合う学校を選ぶことができるということがあっても良いと思う。

　私立は完全にそういうことをやっているが、公立でも少しずつ異なっていても良いのではないかという考え方が広まってきている。

○　私の認識では、小規模校に関しては統廃合の方向では考えないということで意見が一致したと思っていた。

　また、大規模校の方を喫緊に考えなければならないという話があったと思った。

　私としては、近隣校同士の交流がもっとあった方が良いと考えている。

　大規模校と小規模校が隣接しているケースが多いはずなので、両校のメリットとデメリットを補うことができるような体制が作れれば良いと思う。

○　魅力ある学校づくりを進めるうえで、教職員の負担が増加することに懸念を感じる。

　魅力ある学校づくりを進めることと併せて、教職員の業務の適正化が必要である旨の記載もして欲しい。

○　子どもにとっても、保護者や教職員や地域の方にとっても魅力ある学校づくりを示せれば良いと思っている。

　将来のために借金を残さないことは大切であるが、留意事項の１点目にあるとおり、単に財源確保ということではなく、より良い学校を作るという姿勢で提案したいと考えている。

３　閉会

以　上

第９回相模原市立小中学校の望ましい学校規模のあり方検討委員会委員出欠席名簿

	氏　　名	所　属　等	備　　考	出欠席
1	小松　郁夫	流通経済大学教授	会　長	出席
2	斎藤　文	産業能率大学教授		出席
3	田所　昌訓	相模原市自治会連合会	副会長	出席
4	奥山　憲雄	相模原市公民館連絡協議会		出席
5	齊藤　賢一	相模原市子ども会育成連絡協議会		出席
6	竹内　健	相模原市立小中学校ＰＴＡ連絡協議会		出席
7	前沢　弘之	相模原市立小中学校ＰＴＡ連絡協議会		出席
8	森山　小百合	相模原市立小中学校ＰＴＡ連絡協議会		出席
9	奥原　正弘	公募		出席
10	川村　康昭	公募		出席
11	近藤　ひとみ	相模原市立小学校長会		出席
12	萩原　弘則	相模原市立中学校長会		出席